2021.11.10.(水)

色見本紙をおいて、園庭の色探し。
思ったより皆が興味をもち、様々な色を探してくる。
枠に囚われないから、途中から、ほれ！と遊具の青いカップを青色におき、皆で笑う。
ヒートアップしてそのうち緑の一輪車まで。

少しすると、
Ｒさんが、「ひとのものじゃなくて、しぜんなものだけにせんといけん」と
人工物を取り除き、自然物を並べ直す。
その後も、いろんな子どもがのぞいてはふらりと葉っぱや素材をもってくる。
そして、これ黒よ、白もあるよ、と一枚の葉の中にもいろんな色があって、その部分の色を再発見したりする様子があった。
実は今までさざなみで、こういうのはしていなかったなぁ、と思う。
こういうの、とは、あえて気づきを意図して生み出すアクティビティのこと。
暮らしの中で美しいものや不思議に自然に触れたり、自然のものを食べたり材料として活用したり、が多かったかな。

集めた色をぱっと捨ててしまうのは惜しくて、私は並べ始めた。
するとそこでも子どもが興味を持って集まり、一緒に並べたり、葉っぱを取りに行って並びに加えたり、と止まらない。

色の再発見。

2021.11.17.(水)

今日はがっつり、乳児の焼き芋当番。
Ｈさんは、火バサミで落ち葉をつかむ。
そこに私が、
「ショベルカーだ。掴んで、ウィーン、ガチャン、焚き火に投入」と掛け声をつけると、
嬉しそうに焚き火の上に火バサミを動かして落ち葉を落とす。しばらくはそれにはまって何度もする。

そんな感じで興味を持って、落ち葉をいれてみたり、うちわで仰いでみたり。
熊手で落ち葉を集めたりする子どもを自然に受け入れながら、午前中は過ぎた。

午後３時、午睡おやつを食べた乳児さんがわぁー、と降りてきて、
少し前に火から上げて、タライで冷ましてある芋の周りに集まる。
結構たくさんあったが、次々におかわりにきて結局完売。
紫のサツマイモもあり、味の違いも感じるようで、むらさきおいしい、やら、むらさきじゃないほうがいい、など言っていた。

お昼ご飯後、年長のＳさんとＲさんがしばらく乳児園庭で遊んでいたのだが、
Ｒさんが環境デザイン室に興味をもち、その中のスノボーも発見。
すると、外にあった板をウッドデッキに半分かけてスケボーに見立てて乗ってみて、
バランスが崩れたら落ちてバタン！と板が音をたてる、を繰り返す。

丸太にのせるのは？と提案すると、丸太を２つ集めて乗って転がしてみて安定しないのを感じ、
「大工の山本さんに言ってくっつけてもらわないとダメだ」という。
その後、「あ、そうだ」と乳児のおもちゃの電車に板を乗せてころがろうとするが動かず。
色々工夫している様子がとても面白かった。

2021.11.26.(金)

冬到来。焚き火の季節。落ち葉のシャワー。

園庭のイノコ竹ももっと楽しみたい。

保護者さんが園畑で栽培した大麦の茎でのヒンメリづくりから、

自分たちでも大麦を栽培して、栽培したものでヒンメリをつくって

保育環境に飾り、子どもたちに還元したい、と畑を一緒に。

みんなで自然保育の環境づくり

2021.12.1.(水)

今日は、収穫していた大豆を園庭にもっていき、鞘から豆を出すのを子ども達と一緒に。

こういう作業、子ども達は好きで、「おおきい」「ちいさい」「しろい」「みどり」「むしがおったー！」などと言いながら、どんどん人数が増えながらやる。

生で食べて美味しくない、と吐き出す子、美味しい、と何個も食べようとする子。

その後、半量を水に浸しておいて、PM の時間に 40 分くらい火にかけて茹でた。

途中、蓋をあけると、大豆が浮いてきて、対流でくるくる舞っている。
それをみて、年少の M さんは大喜び。
「まめがおどってる~」
「まめおどりだね～」と私がいうと、M さんを始め周りの子供達もよろこび、まめおどり♪と言いながら、身体を動かす。

茹でた豆は、そのままでとても甘くて、大行列ができ、あっという間に売り切れ。
まめを配る間、
「まめ、うまい！」という声がたくさん聴こえていて、豆ってすごい！と改めて思った 12 月の第一日。

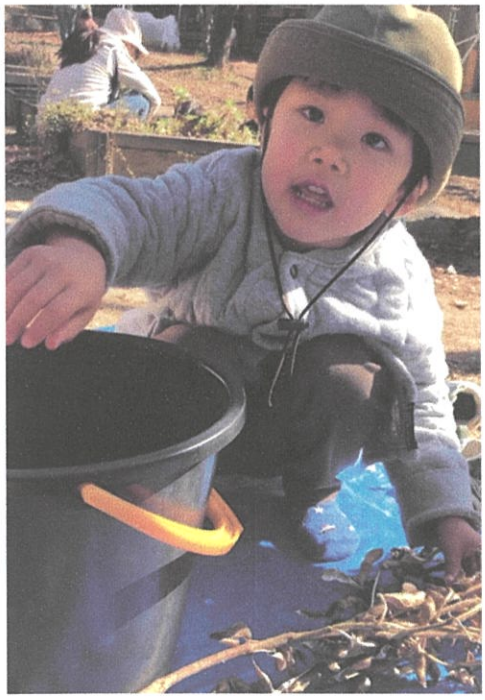
2021.12.6.(月)

大豆さやだしを、午前の子ども達とも。
「なにしてるの？」
「はたけに種を撒いた大豆ができたから、豆を出してるよ。ほら。」とさやをパカンと開いて見せる。
「やりたい！」
「どうぞどうぞ」といった調子で大勢集まる。

いないいないばーになぞらえているのか、握りこぶしに大豆をいれて、「いないいない～、だいず～！！」と拳を開いてこちらに突き出している子がいたり、「どっちに入っているでしょうか～？」と言いながらあてっこさせてきたり、遊びや発見を含みながら暮らしの営みを共に過ごす。

午前の子ども達にもシンプルな茹で大豆の味を味あわさせてあげたいから、水曜日午前にでも茹でて、昼食後に一緒に食べよう。

あさひの畑耕運は、ちょうど送迎時とかぶり、興味をもつ子ども達ギャラリーに囲まれる。
耕運機を動かして見せた。
耕運仕立てのふかふかつちを踏んで、その感触に大喜びの子ども達。
あまりに楽しくて明日もやりたいと言いつつ帰っていった。
畝をつくったら、踏まないで欲しいんだけどなー。悩ましい。



2021.12.8.(水)

今日は種まきを子ども達としたかったのだが、
お散歩したーい、とみるみるうちに 30 人近く集まってきたので、諦めて散歩に。

子ども達の行きたいに沿って、
今まで入ってなかった森の中に入り、冒険コース。
結構な斜面だったり、木々の中だったが、年少さんでも弱音を吐くことなく、がしがしとついてくる。
道なき道をいく、危なさとワクワクは隣り合わせ。
今日の子ども達はエネルギーの発散具合がすごく大きくて、冬だけど温かい日差しが心地よいのを感じながら自由を思い切り楽しんでいるようだった。

2021.12.14.（火）

前々から地上部に突き出し、もう取りどきだよ～、っ主張していた大根を少数に声をかけて取りに行く。

ひとりひとり抜こうとするも、なかなか抜けない。
「うんとこしょ、どっこいしょ、それでもかぶはぬけません。うんとこしょ、どっこいしょ、まだまだかぶはぬけません♪」と大合唱しながら今度は皆で掴んで力を合わせて抜く。
かなり大きい大根！

その後、皮むきも葉っぱを包丁でやるのも、やりたい！の嵐。
2 人包丁で指を切ったが、これも経験。
やり方を伝えても、今、自分がやりやすいやり方を自然に選んでいるから、
危なかっしくても、たまに口出しするにおさめるよう意識する。
なんというか、「隙間」「余白」を作るように意識している。

葉っぱをごま油で炒めて醤油であじつけたものも大人気。
子供が切ったから大きく切っているし大きくなりすぎだから固いし苦味があるし、どうかな、と思ったが、瞬く間に大量の葉がなくなった。
そこで時間切れ。

大量の大根を切って下茹でする居残り仕事。
明日は練り味噌も作って、皆で風呂吹き大根を味わう予定。
さてさて、どうかな。

2021.12.16.(木)

幼稚園タイプがいるうちに、囲炉裏での焚き火を経験させてあげるには、
冬休み前では今日しかない！と実施。

落ち葉は持ち込んだ。
最初は年少のひと部屋しか出てない中で始めたが、早速興味をもって、集まってきた。

そして、ちろっと上がった炎をみるや、大興奮。
こないだの消防訓練の影響か水を持ってきてかけたり（笑）、
土がたっぷり混じった葉っぱを投げ入れたり、
火は瀕死になりながら、落ち葉を入れていた段ボールをちぎって風を送り、ギリギリ保つ。
「うたをうたったらひさんがけんきになるんじゃない！？」とある女の子が言い、
「いいねぇ、なにうたう？」ときいたら「じゃあ、あんぱんまん!」とこたえ、大声で歌い始める。
それをきっかけに、周りの子もそれぞれうたいはじめる。
面白いのは、みんな別々に何かしらうたっていて、次第に詩の内容が自作になっていって、
「ひがついたよー、みずをかけた～ら～♪きえたーよー♪」など、今の状況に即した即興になっていた。

火には人を興奮させるスィッチがあってDNAにきざみこまれている、と
高揚する子ども達をみて、いつも思う。

2022.1.13.(木)

今日のどんどでの一幕。

四隅に立ててある竹が残って中が燃え盛るとんど。
すると四隅の竹から蒸気機関車のように白い煙が噴き出す。

それを男の子２人が並んで、「けむりがでてる」と発見
私がキャッチして、「蒸気機関車みたいねぇ）というと、
「ちがうよ、かざんだよ！」などと言いながら、その情景をさまざまな状態にたとえはじめる。

起こる現象を、自分が経験した生活体験や知っていることと結びつけて、
似ていると分類したり、言葉にして、友達とかわしあい、キャッチボールの会話をする。
そんななかでいろんな事象を自分なりに繋げていく、
そんなことを感じた場面だった。

2022.1.19.(木)

この季節の野外のデザートは、フユイチゴ。
あべまきに行く途中に、フユイチゴスポットがあるので、立ち寄って、デザートをゲットしてからあべまきへ。
最初は採って採って、という子ども達も、そのうち目ができてきて、見つけて自分でとるようになる。

今日は６人で少ないから、あべまきに行っても好きなだけ遊具が使える。
テミで竹滑り台を楽しんでいたユウトさんとカンスケさんだが、滑るためにあがる坂道でもテミで滑れることを発見！
何度も滑って楽しんでいた。

2022.1.21.（金）

とんどをした田んぼは、
今はお休み中だから大丈夫だね、と通らせてもらった。
広い田んぼを自由に走る子ども達は太陽の光もあいまって、光り輝いていた。

焚火のマッチはお手の物。
大人が口出ししなくても、
「ながくらもたんと！」「もっとはやくシュッっと！」など、指導者たくさん。

散歩に行く前には、
年少Ｋさんとじっくり園庭で過ごす。
自称、絵描きの仕事をしているＫさん、外に出て船の上で絵描き仕事。
船はざらざらした表面で、描いた線がしましまっぽく。
それをここがこうだから、と説明してくる。
そっかー、じゃあ、あの木のところで描いたらどうなるかなぁ？と木を指差し、木に紙をあて、かいてみる。
他の木は？ベンチは？
直接触ってみたらボコボコ？つるつる？
そんなことに展開していって一緒に楽しんだ。
いろいろなことに疑問をもち、自分なりに解を提示する、そんなＫさんだった。

2022.2.2.(水)

温床づくりを子ども達と。
ふかふかの感覚が楽しいらしく、みんな踏み踏みしまくり。
米糠をかけて混ぜると、なんか良い匂いがする！といいながら、またふみふみ。

なんなん？なにするん？
という子ども達への説明は、菌ちゃん農法に書いてあった言葉を自分流にアレンジ。

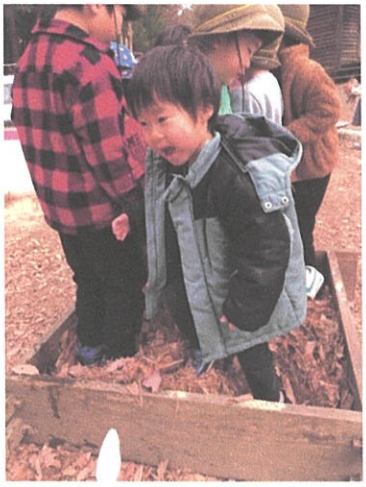
「小さい生き物が葉っぱとお米の殻を食べて、たくさん増えて、そうしたら、たくさんの人でおしくらまんじゅうして押し合って温かくなるんだよ。踏むのは、小さい生き物とご飯を近づけてあげるためだよ。そうしておしくらまんじゅうで温かくなったものを敷き布団にして、その上に種をまいたポットを置いてあげると、寒くででられないよー、と言っていた種が、ぬくぬく布団で芽をだすことができるよ。」

そのようなことをかいつまんで伝える。
外に出てくる言葉数は少ないけど、実はとってもよく笑い、たくさん心は動かして楽しんでいるＹさん。
落ち葉ふみでもすごい笑顔。ジャンプしまくり、角の方だと足が沈むことを発見し、また笑う。心全開。

水をかける場面では、シャワーヘッドを上にむけ、水をいれることで噴水にしよう！と連携プレー。
皆それぞれの役目ややりたいことを自分で見出している。

終わり頃にきたＫさんは、「これはかみさまよ。たくさんたねをそだてるけん。」と落ち葉を詰めた箱に向かって拝む。周囲の子どももならって拝む。うーん、面白い。

多分、混ぜる作業と米糠が足りないから、発酵しないかもだけど、改善していく過程、それも含め、一緒に味わっていこう。



2022.2.15.（火）

午前中、畑作業をしていると森乳児さんが散歩にやってくる。
温床囲いの中に入れてあげたり、田んぼでとんど後の炭を一緒に割ってみたり。
風も強い日で、はっとひらめいて、この間やりたかった風感じ遊びを実践！

バケツにしまっていた長い不織布を取り出し、田んぼで棚引かせる。
わーっと子ども達はそのひらひらを掴みにかかる。
私が持って逃げるとひらひらを追いかけてくる。いや～、楽しい！

そして午後 PM 幼児との散歩でも、この広い田んぼは大活躍。
駆け回るうちに、だるまさんが転んだ、が始まる。で、土手の斜面で、だるまさん転び遊びでコロコロ自分が転がる遊びに発展。

里山環境が子ども達がのびのび遊ぶ許容量を広げてくれているのは間違いない。

2022.2.16.(水)

畑のキャベツに群がり、ちぎってむしゃむしゃ。
残ったキャベツは、
さながらヒヨドリの食べたあとのよう（笑）。

ゆみさんが子どもにみせてやりたいと念願の芽キャベツも取りごろ。
子ども達に、ゆみさんと一緒に収穫してもらおう。

温床を踏むのをお願いしたら、みんなが乗ってやりがる。
農✕子どもの相性、っていい。
そして今日も風が強いので、幼児にも不織布を出して風遊び。

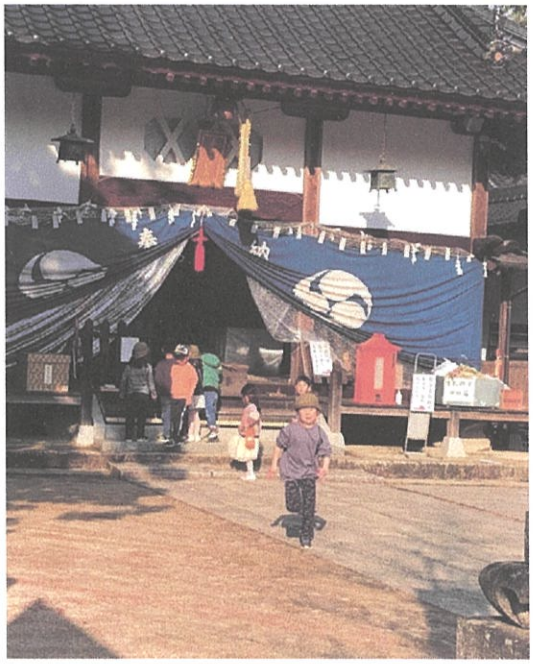
2022.3.2.(水)

散歩は子ども達の希望であべまき神社へ

池の鯉に夢中になりながら、Ｒさんが、
「みて、あそこ、きらきらしてる」と水面が煌めく箇所を教えてくれる。
煌めく場所が時間で変わる。
なんでだろう？と私が言っていると、たいようだからだよ、とこたえる。

問いに対し、自分なりの答えが生み出す。

そこには固定概念がなく、ハッとさせられる。



022.3.3.(木)

午後スタッフのＹさんがずっとやりたいと言っていた、芽キャベツの栽培収穫。
面白い形に実っているのを、子ども達に見せてあげたい！との理由。
それで、昨年種をまき、育てたものが取り頃を迎えたので、昼食後の外遊びタイミングで、
何人かの子供をＹさんが誘い、一緒に収穫に。

年少Ａさんは、メキャベツをメタキャベツ、と言いながら収穫。
普通のキャベツもむしって収穫。
芽キャベツは普通のキャベツよりも青臭く、食べた子は、まずっ！と吐き出していたが、
お汁とかにいれるといいよ、と言うと大事に持ち帰っていた。
大好きなお母さんお父さん兄弟に、自分がお土産を持ち帰り食べさせてあげる、というのは、
大きな喜びの一つのようだ。

夕方の散歩もまた畑へ。
取り忘れのカブや大根からキャベツのむしり後の残り、広島菜の葉や菜花など、
あらゆるものにたかって収穫。今、畑はすっからかん。

その後、年少Ｕさんが、川に竹の棒をいれて、落ち葉などのヘドロっぽくなったのを跳ね上げる遊びを始める。
それを見て、年長Ｓさんが、「おれもやる！」と竹の棒を取りに駆け出す。
それをみて、年長Ｍさんが、「おれやらん。こんなおこさまっぽいのやりたくない！」と一言（笑）。
子どもと思っている相手から、おこさまっぽい、という言葉が出ることに笑ってしまったが、
これこそが自我が芽生えているひとつの姿なのかもしれない。

2022.3.4.（金）

暖かくなってきたと思っても、まだまだ肌寒い日。
コロナ対策で、今日はすくすく使わず、みんな園庭へ

枯れ松を伐採したところを子どもと見に行くと、
「いっぱいまつぼっくりあるんよ」の言葉通り、大量の松葉と松ぼっくり。

これはよく燃えるんよね、と私がポロリと言った言葉から、焚き火をすることに。

焚き火が始まったら、あとは好きほーだい。火がおきているところに、
年少さん達が若干湿った大量の落ち葉を投げ込みまくり鎮火したのを、
皆が復活させようとかき混ぜたり、寄せたり、吹いたり。
なかなかつかなかったところに(熱がじわじわと葉を乾かし）急にぼっと全体に火があがり、
すると、火事だ火事だとじょうろに水をいれてふりかける。

焚き火では毎回みんな、やりたい松明遊び。
煙がくるとつい煙たくて、持った木の枝を無造作に持って動くから、つい事前に予備注意してしまう。
これも言うことを極力我慢したほうがよいな、と。
子どものうちに自ずと生まれる気づきを大切にしたいから。

常にこういう言葉かけは葛藤するなぁ。
怪我させたくないのは、子どもに熱くて痛い思いをさせたくない、一生の傷を負わせたくない、
だけではなく、保護者や他の保育者、管理者からの責任の問いを避けたい気持ちが
自分にあるのを知っているから、、、。

自然保育っていったいどんな保育なんでしょう？

子どものありのままを認めて、
子どもの内側から生まれてきているもの、
心が動いている様子を
その目線、表情、動き、言葉などから丁寧に観とり、
黙って見守ったり、寄り添ったり、さらに引き出したり、後押ししたりすることで、
子ども達個々の多様な育ちの可能性を広げていくこと。
そばにいる大人がそういうあり方でいることが
一番最初のステップではないでしょうか。

そのような大人の環境があって、
子ども達は、自らの興味関心による自立的な行動を無意識に行うというような
主体性、自立性を育むことができます。

それが土台にあり、その上で
身の回りの自然をもっと感じたり、繋がったりする環境や機会を、
子どもが育つ大事な要素として大人が整え、つくっていくこと。

これらが自然保育の保育の要素のひとつだろうと思います。

自然の中で目を輝かせている子ども達を前に、
自分の可能性を思い切り広げ、個々人が輝いている未来を夢みます。